



宇宙特急便



旅の途中(創業にまつわる話あれこれ) ⑰

気が付いたら誰もついてこない…。振り返ると自分は会社組織の一員としての教育を受けたことがない。中途採用が珍しい時代、生え抜き集団の会社のなかで、私の都合で勝手気ままな言動に違和感を感じた同僚もいたと思う。そうこうするうちに所長を通じて本社顧問から昼食に誘われた。日本史の教科書に出てくる徳川幕府の大名の系譜の方だった。本社ビルの一角にある営業所廊下やロビー、フロアで、耳に鉛筆を挟みワイシャツの間にネクタイをねじ込み、忙(せわ)しく動き回っている奇妙な男に興味を持たれたのでは…と思う。

案内されたのは有楽町のたいへん眺望のよい静かなレストラン。海運や海外での話、面白くて楽しくて時間を忘れてしまうほどだった。食後、「何にしますか?」と丁寧に尋ねられ、「はっ…珈琲を」、と答えると、「キミ、珈琲はお金を出して呑むものじゃないよ(笑)、アイスクリームにしなさい」…そのあと、どう受答えたのか…覚えていない。



生産性の向上なくして効率なし。

「セールスドライバーの件費にはいくらでも業務を積み込める」多くの自家用トラックと運転職社員を抱えた経営者の話だ。運転職社員は売り上げ増に無限に寄与できる便利機能だと思っていたフシがある(無邪気にも!)。

運転以外に新規開拓、納品、集金、在庫、顧客管理、よらず相談から不都合な作業迄、あらゆることを彼らに背負わせることが高収益を生むことが賢いやり方として通用してきた。「24時間働けますか!」高度成長時代には絶大な威力を発揮したことだろう。

もっともらしく語られてきた「生産性の向上」のスローガンが虚ろに響く。企業成長のために不都合な部分を犠牲にして、時間と我が身を切り売りする先に真の成長はない。

職種を定めた「ジョブ型雇用」が注目されるのも時代の変化の現れだ。トラックドライバーだけではない。社会全般の働き方改革が本当の生産性向上に繋がるならまだ希望はある。



誕生日おめでとう。

5日 S・O
29日 K・M



二十四節気

7日 大雪(たいせつ)
雪が降ってくる頃

22日 冬至(とうじ)
一年中で最も昼が短くなる頃

日の出 6:46
日没 16:32

今月のひとこと

「不安全」見たら その場で即注意 言える心と 聞く気持ち

建設現場の標語

